

異なる障害を乗り越えて 田中英孝・知恵夫妻

(株式会社かんでんエルハート・大阪)





英孝さんたちが働く(株)かんでんエルハート



英孝さんのグループでは、車いす使用者4名、内部障害者1名が、ともに働いている



田中英孝さん



さまざまな障害者が働く職場。英孝さんも、手話で聴覚障害者とおしゃべりを楽しむ



かんでんエルハートの建物や設備は、障害者が動きやすいバリアフリーになっている

関西電力株式会社の特例子会社である「株式会社かんでんエルハート」で、このほど障害者同士としては二組目の新婚家庭が誕生した。

新郎は業務課に勤務の田中英孝さん、新婦はヘルステア課に勤務の知恵さん（旧姓亀山）。二人はそれぞれ肢体不自由、視覚障害というハンディを見事に乗り越えてのゴールインとなった。

英孝さんは高校を卒業後、パン屋に就職、パン職人として店をもつ夢をいだけて働いていたが、平成七年一月十七日の阪神淡路大震災により店が倒壊し、閉店となったため、やむなく建設会社に転職した。ところが不幸は続くもので、平成八年九月に兵庫県内のビル工事現場で作業中誤って転落、受傷し、その際脊椎を損傷、両下肢機能全廃となり、車いす生活をしいられることとなった。

しかし、持ち前の精神力により就労を決意し、兵庫県立障害者高等技術専門学校コンピュータ製図科に入学した。運よく、かんでんエルハートが関西電力所有の保養所の電話受付事務を受託することとなり、平成十年十一月に入社した。

入社後はパン屋時代に身に付けた接客力と専門学校で習ったコンピュータ技能を生かし、さまざまな問い合わせをそつなくこなし、他の四人の同僚（すべて肢体不自由者）のリーダーとして活躍しており、お客様や施設管理人からもたびたび感謝の言葉をいただいている。

一方、新婦の知恵さんは名古屋市に生



田中知恵さん



知恵さんが働く関西電力本店内の健康管理室



心理学を勉強中の知恵さん。将来は「心と身体の両方を癒せる治療をしたい」と語る



知恵さんとともに働くヘルスキーパーの伊藤知我子さん(左)と
栢木峰子さん(右)



ヘルスキーパーは関西電力の各営業所に出かけ、セルフケア講習会の
講師としても活躍している (写真提供:かんでんエルハート)

●株式会社
かんでんエルハート
〒559-0023
大阪市住之江区泉
1-1-110-58
TEL 06-6686-6874
FAX 06-6684-2132

まれ、小中学校は普通に通っていたが、高校入学後視力が低下、視覚障害者となった。その後自立を決意し、単身神戸にある国立視力障害センターに入所、マッサージ師の国家資格を取得して、平成十年四月にかんでんエルハートに入社した。入社後は関西電力本店内でヘルスキーパー（企業内マッサージ師）として、電力社員の健康維持に貴重な存在となっている。

入社当初はお互いその存在を意識することはなかったものの、知恵さんが英孝さんの友人のテニス仲間に誘われてテニスに参加し、そこではじめて二人の交際が始まった。

その後もスキューバダイビングに一緒に挑戦するなど、幅広い共通の趣味を通じて愛を育み、この程のおめでたとなった。二人の結婚の意思は比較的早くに固まっていたが、おのおの違う障害をもつ身であり、当初は互いの両親の猛反対にあったが、誠心誠意説得してこれを克服した。

二人はJR尼崎駅近くのバリアフリーマンションに新居を構え、互いの障害をカバーしながら新婚生活を送っている。



本誌編集委員でもある、かんでんエルハート戸田幸彦顧問から祝福を受ける2人



多くの友人、知人が2人の結婚式にかけた（平成14年9月、尼崎市のホテルで）



同僚の盲導犬“キルト”も祝福



マラソンにも挑戦した知恵さん。先導役の平岡安光業務課長と五木マラソンで（写真提供:かんでんエルハート）



スポーツが大好きな2人。ただいまスキューバダイビングに夢中（写真提供:田中英孝さん）



休日に1週間分の買物に出かける。料理担当の知恵さんがメニューを考えながら英孝さんに指示して、買物をする

